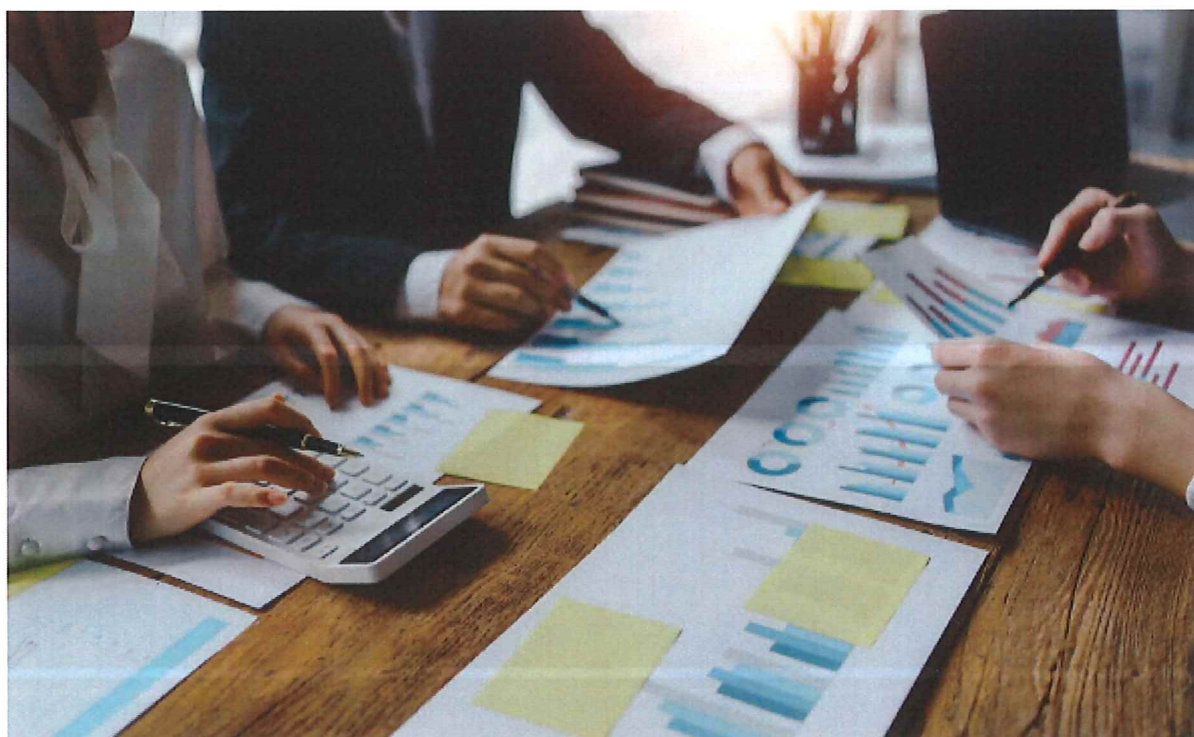


景況動向指数(Diffusion Index)

(2024年4月～6月)



経営発達支援事業資料

長浜市商工会

調査対象事業所

長浜市商工会 管内100事業所

製造業（20事業所）

建設業（20事業所）

卸小売業（20事業所）

飲食宿泊業（20事業所）

サービス業（20事業所）

＊調査期間 2024年4月～6月

この資料は、経営発達支援事業の地域の動向調査に関するこの目的で実施した資料です。

＊D Iとは？

本報告書の中で%以外に用いているD I 指数とは、デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略です。

各調査項目について増加（上昇、好転、長期化）企業割合から減少（低下、悪化、短期化）企業割合を差し引いた値を示します。

D I が+（プラス）なら強気（楽観）、-（マイナス）なら弱気（悲観）を表します。

例えば売上高で増加企業 50%、不変企業 30%、減少企業 20%の場合、

D I 指数・・・ $50\% - 20\% = 30$ となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表しています。

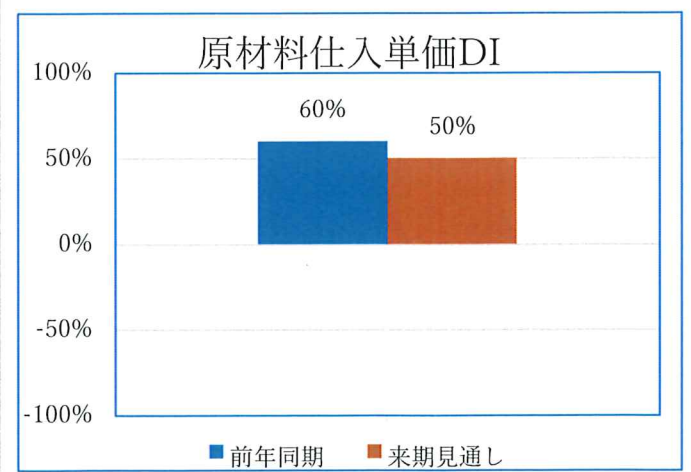
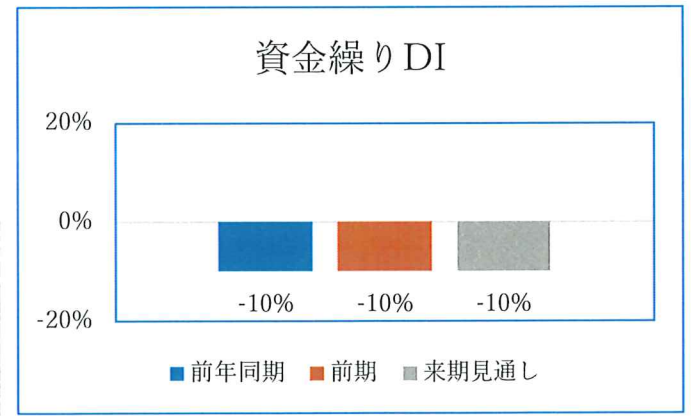
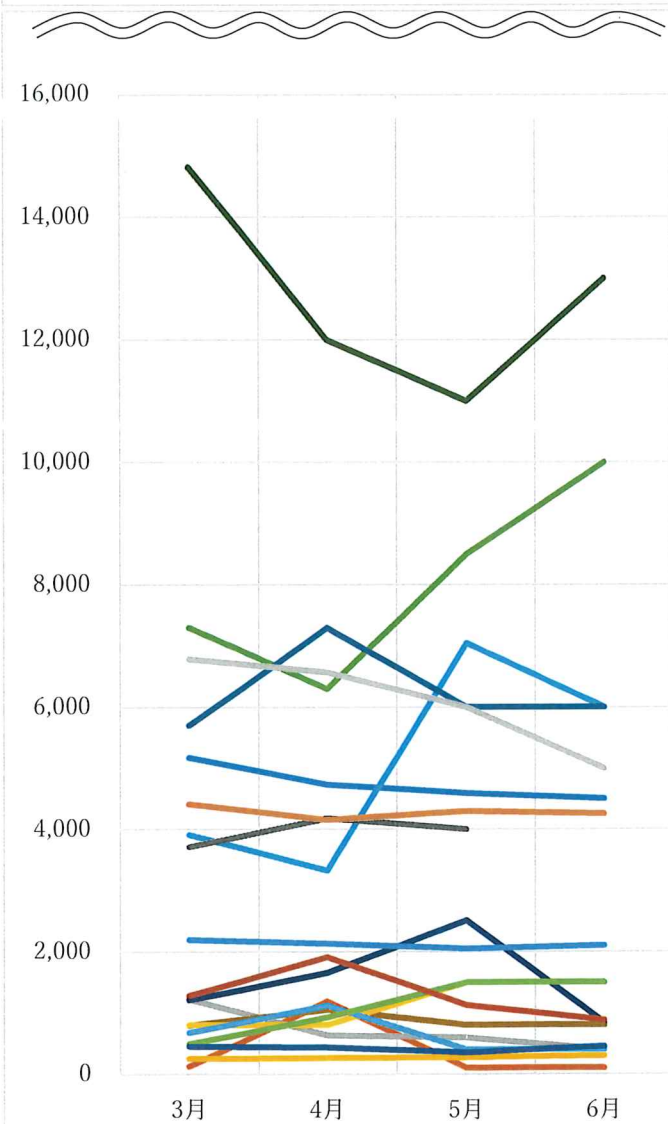
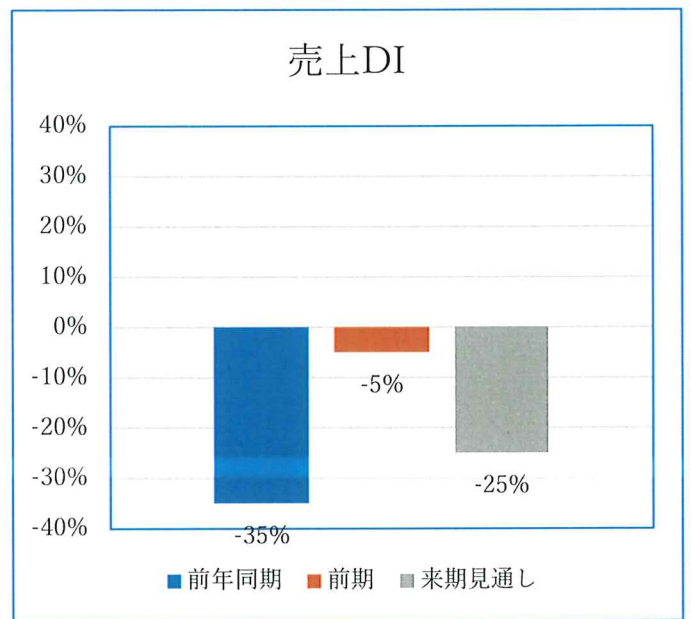
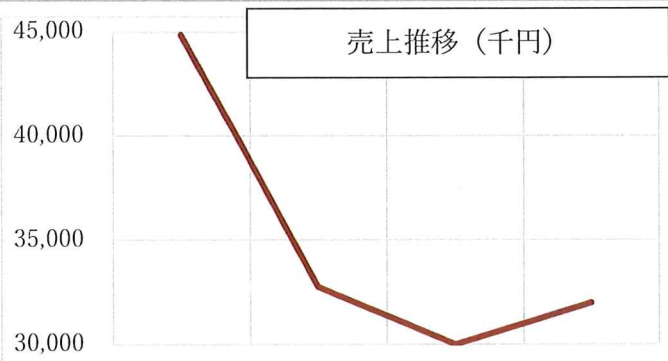
製造業（2024年4月～6月）DI 値抜粋

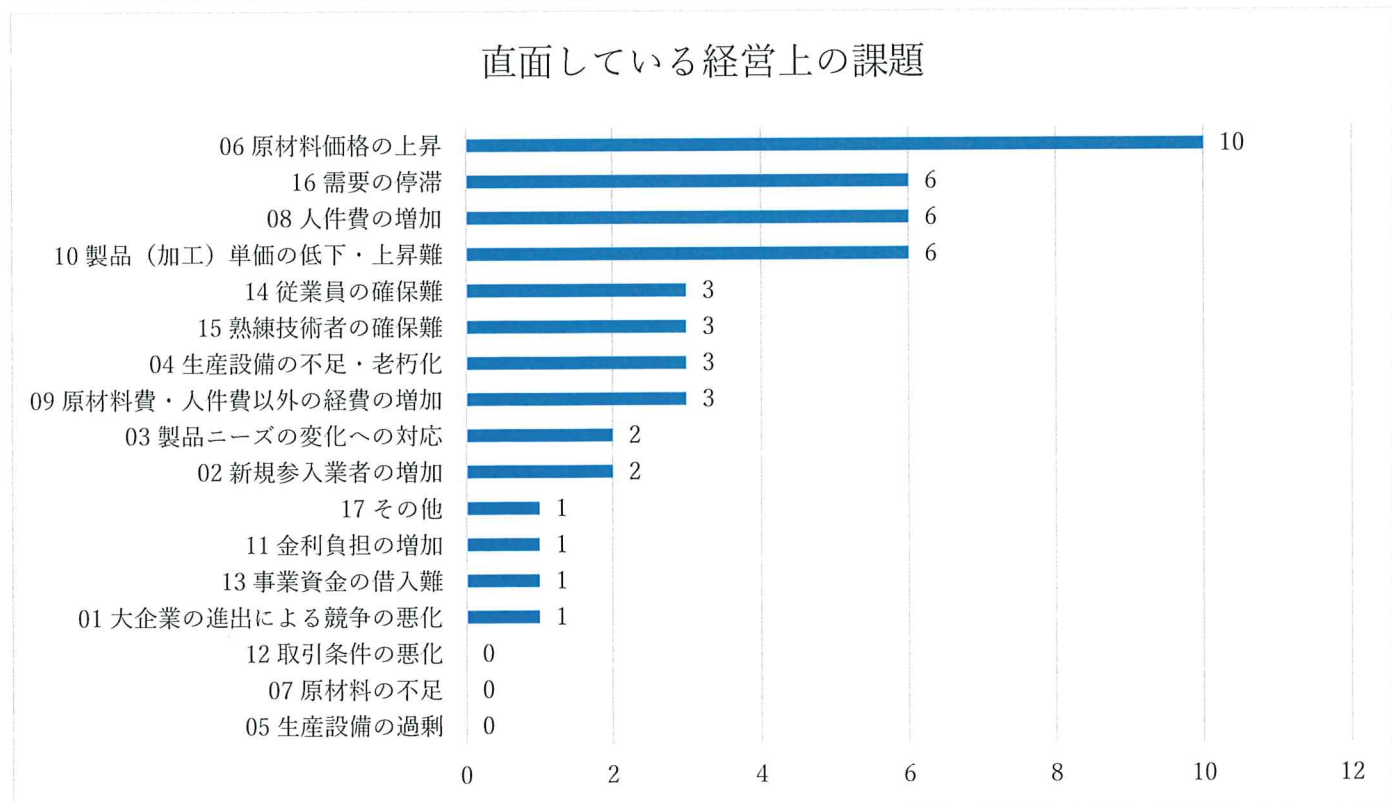
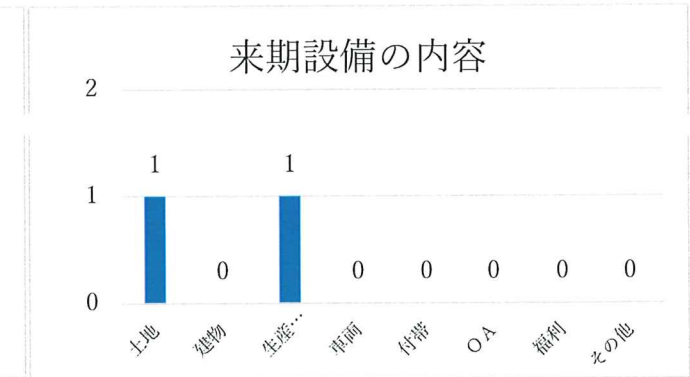
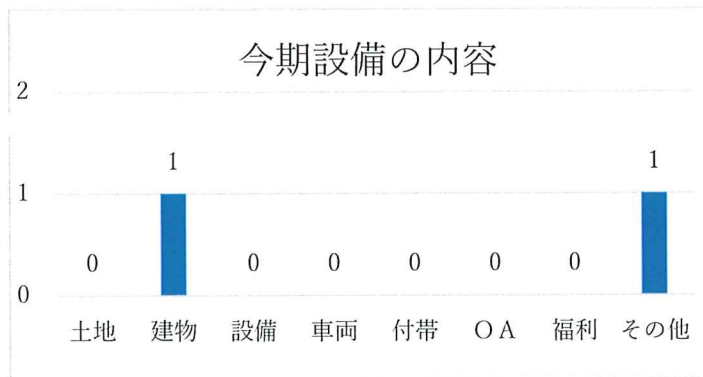
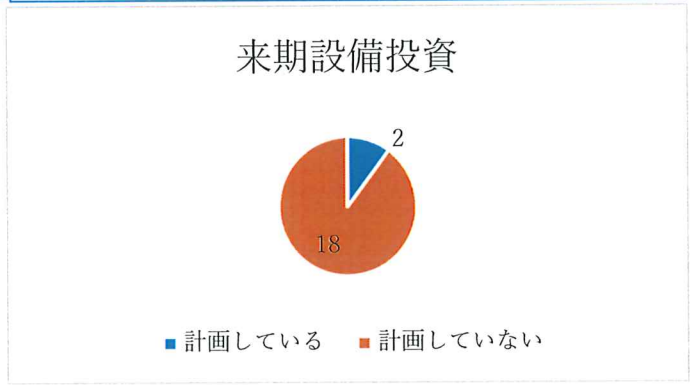
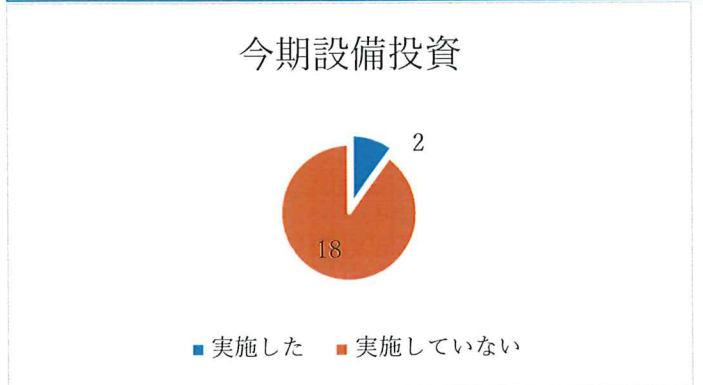
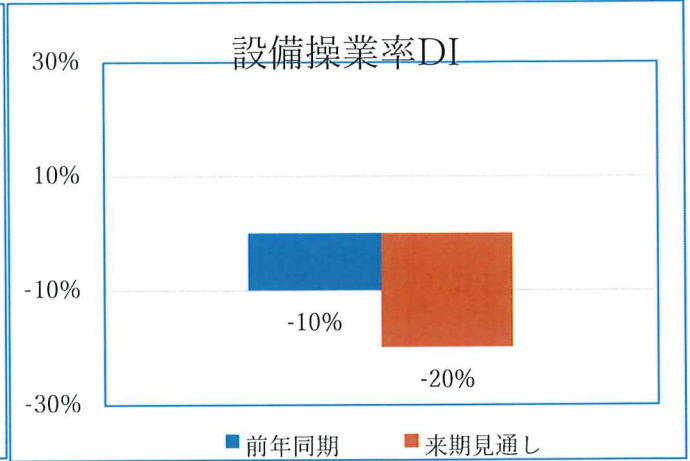
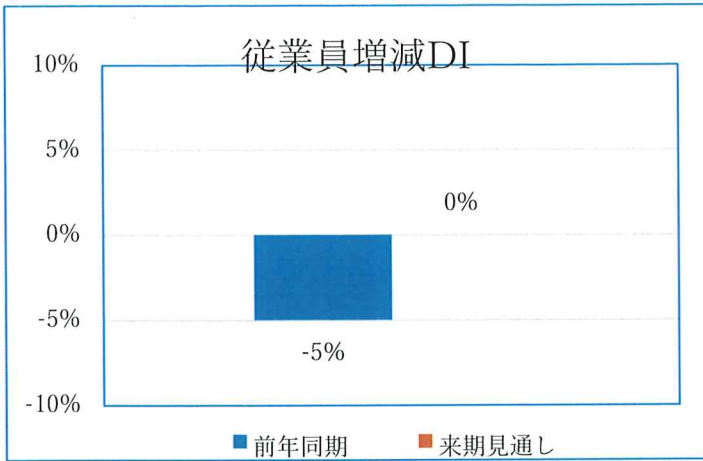
コメント

製造業の業績判断にかかるDIは、低調な状況が続いており厳しい、需要減退、原材料価格上昇と人材不足の三重苦が続いている。

売上DIは前年同期▲35、前期▲5 来期▲25 と下げ止まりは見受けるが先行きが厳しい。資金繰りDIについては前年同期前期来期とも▲10と低調である。原材料仕入単価DIが高止まりで、前年同期+60、来期見通しとも+50 と原価上昇の影響を挙げる企業が過半である。従業員増減DIは前年同期▲5、来期見通し±0と低調な動向である。

設備投資については今期、来期とも低調である。直面している経営の問題として、材料価格上昇、需要停滞、従業員確保難、人件費の増加を挙げる企業が多い。個別の声として、物価高騰したが加工単価が低いままなので、経営が厳しい。世界情勢の悪化と物流の低下により下請業界の悪化がある。コスト上昇分の価格転嫁が難しい。円高で主要原材料の価格が上がっており現状の売価で行けるのか不安がある。と厳しい声が多い中で、今期は原料他、製造原価も落ち着くとみられ、価格転嫁分も売上に貢献して業況は回復の見込みです、との明るい声もあった。





建設業（2024年4月～6月）DI 値抜粋

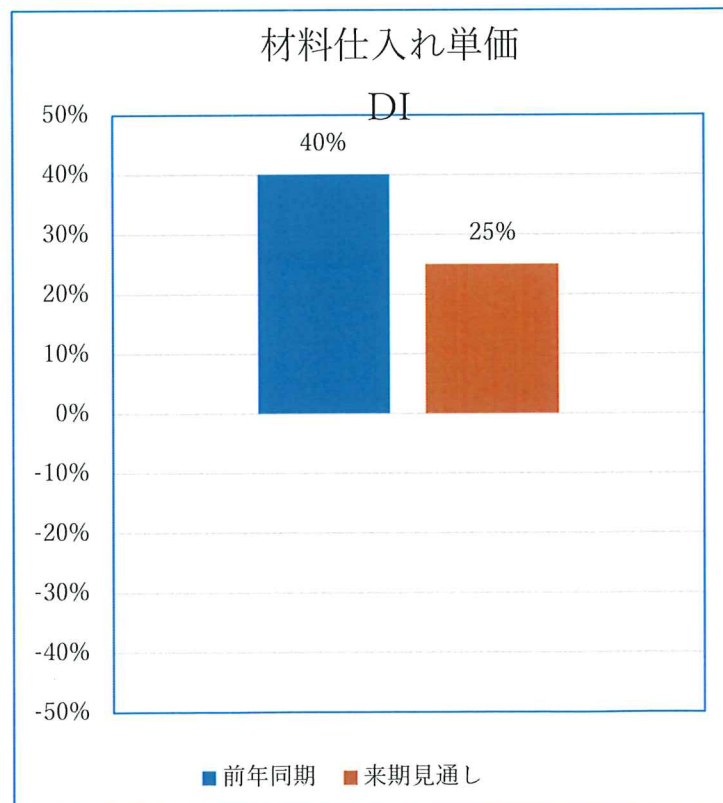
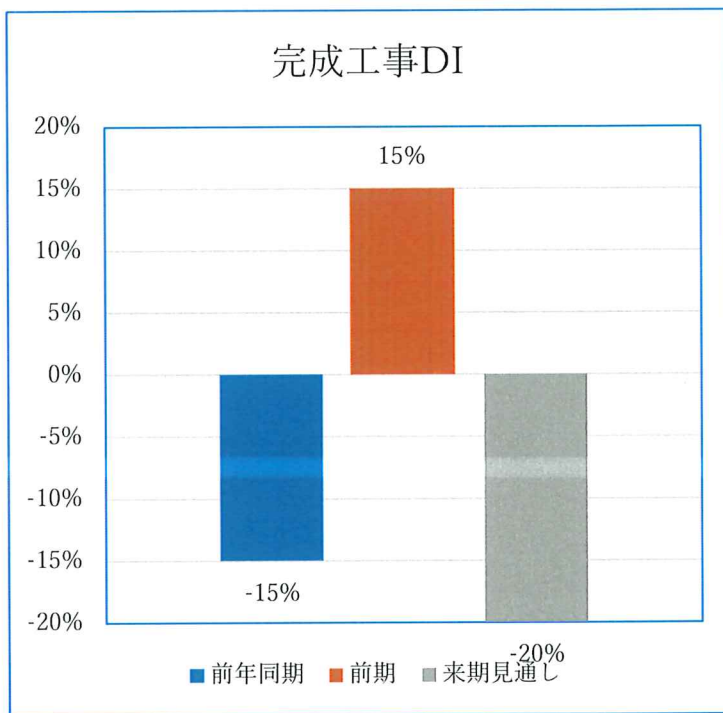
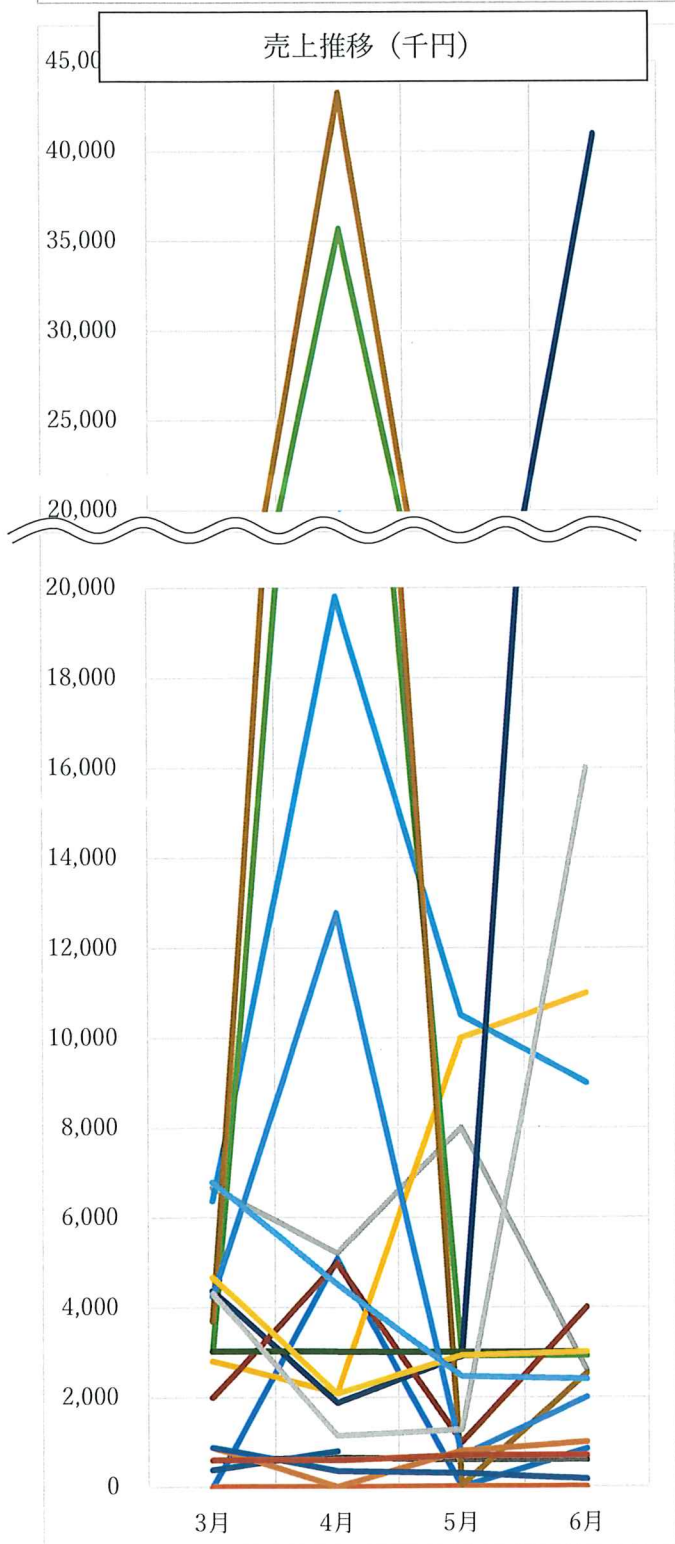
コメント

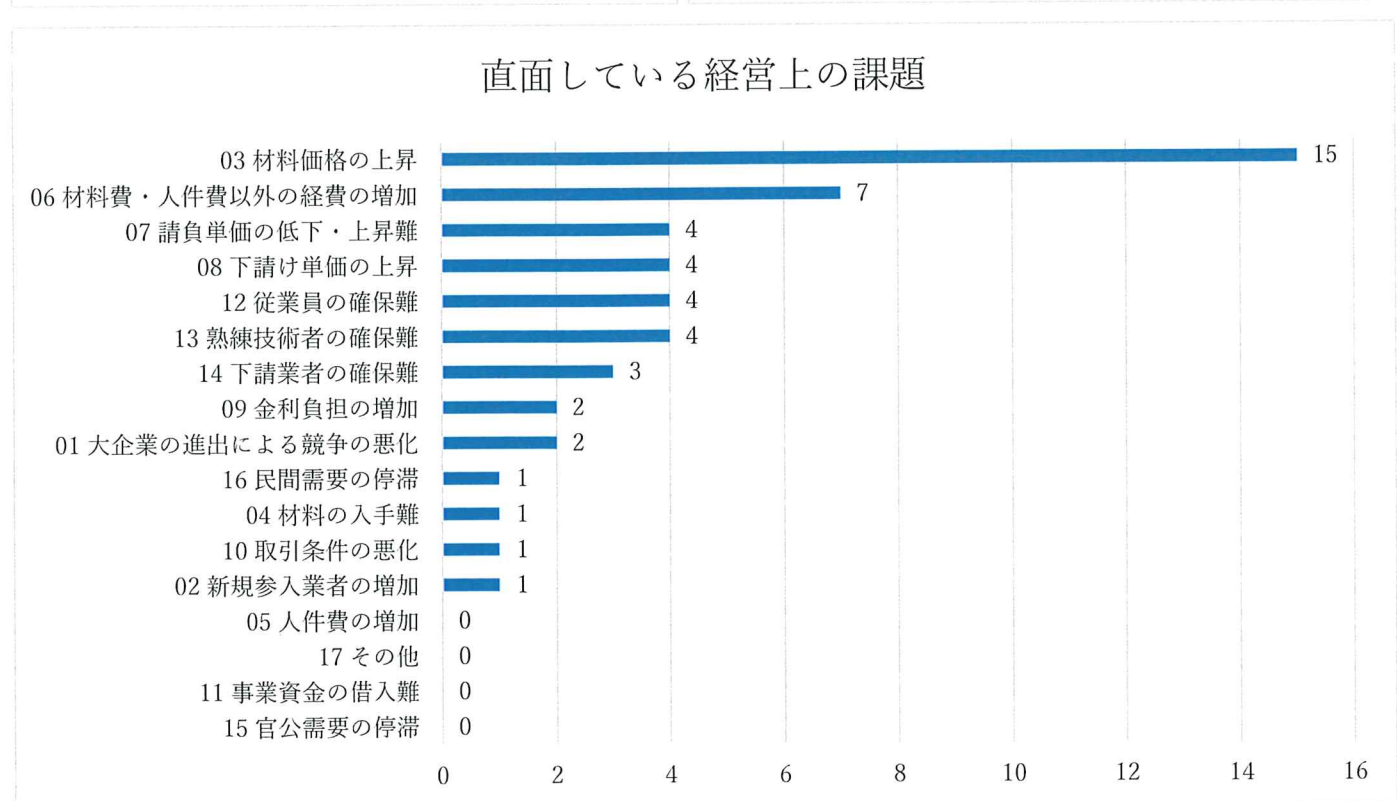
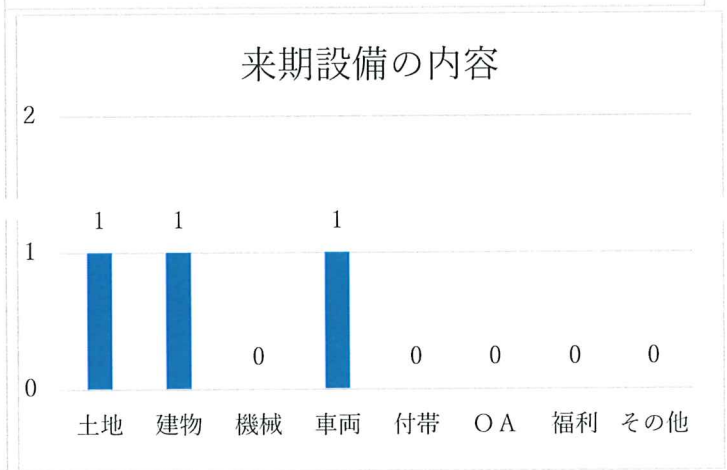
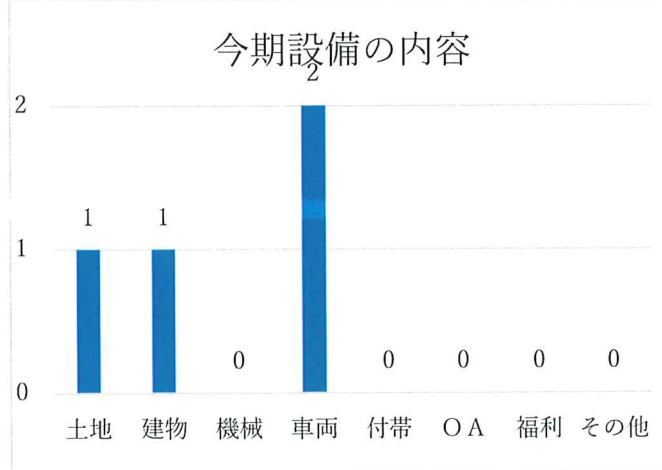
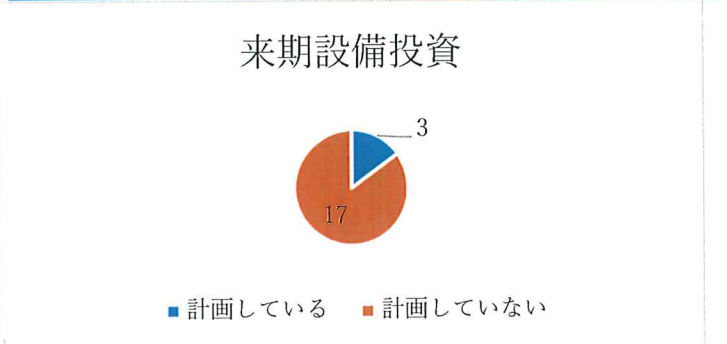
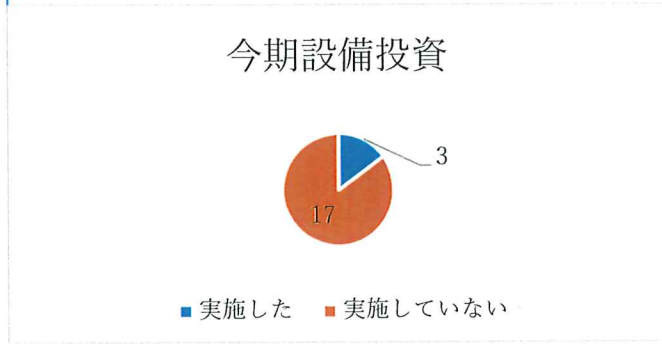
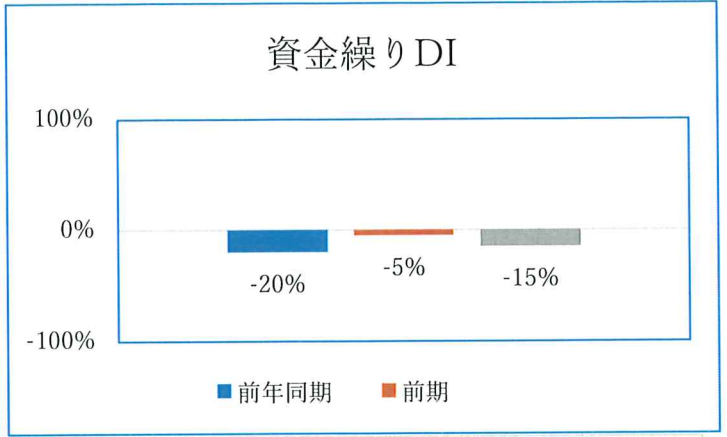
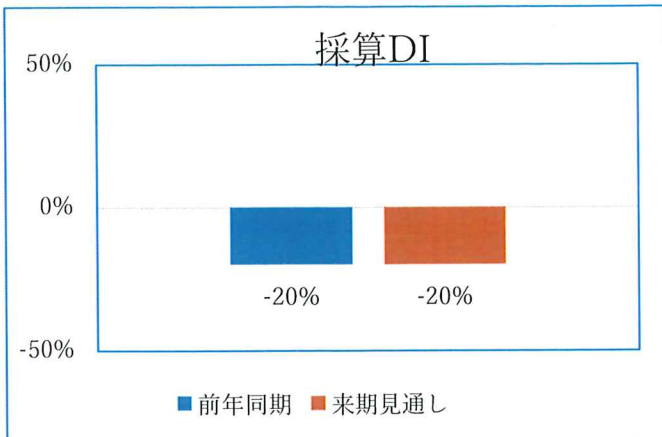
建設業の業況は、依然として低調な状況が続き、回復傾向が見えない。原材料価格等経費の値上げの影響で採算面、資金繰り面も低調である。

完成工事高DIは前年同期▲15、前期+15、今後の見通しは▲20と若干の回復から先行きは厳しい。

原価上昇を上げる声が引き続き多く、前年同期で値上がり+40と材料の値上げの影響の声が多い、来期見通しも+25と上昇を懸念する声が多い。採算DIも前年同期▲20、来期も▲20と不安の声が多い。資金繰りは前年同期▲20、前期比▲5、見通しは▲15と若干厳しい状況が続いている。設備投資は車両の更新程度である。

直面している経営課題として、材料価格の上昇、その他経費の増加を上げる件数が多い。個別の企業の声としては、人員不足で現場管理ができない、湖北の受注が先細りなので長浜に拠点を設けることを考えている。上半期は受注問い合わせが多かったが、足元で落ち着いてきているので営業活動が必要。住宅省エネキャンペーンによる受注が期待ほどではなかった。材料価格の上昇と請負単価の低下に悩んでいるとの声があった。

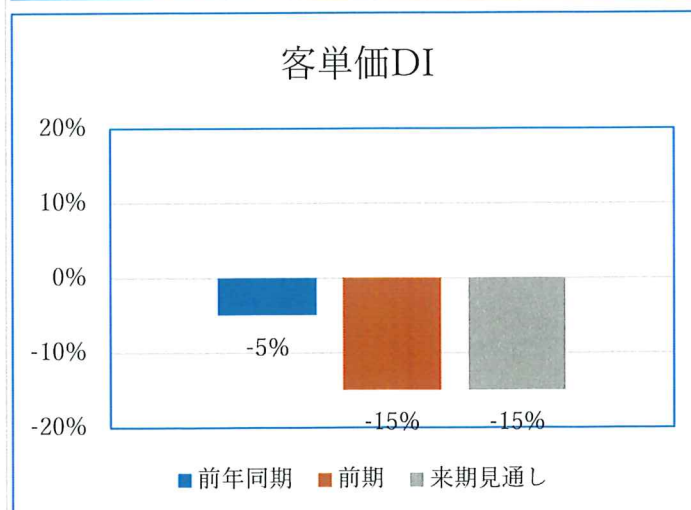
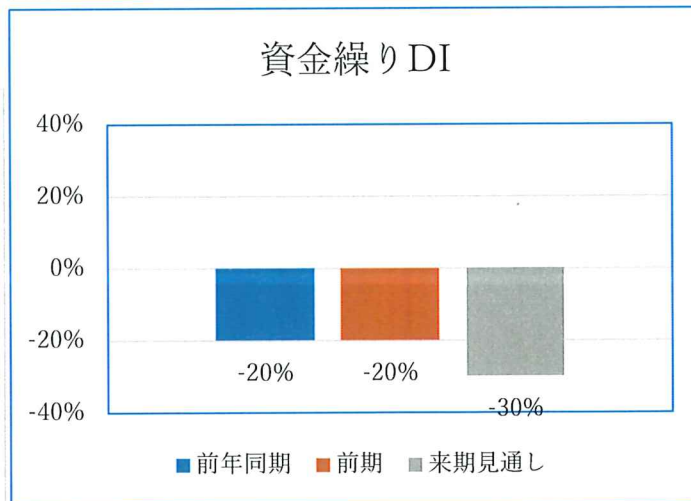
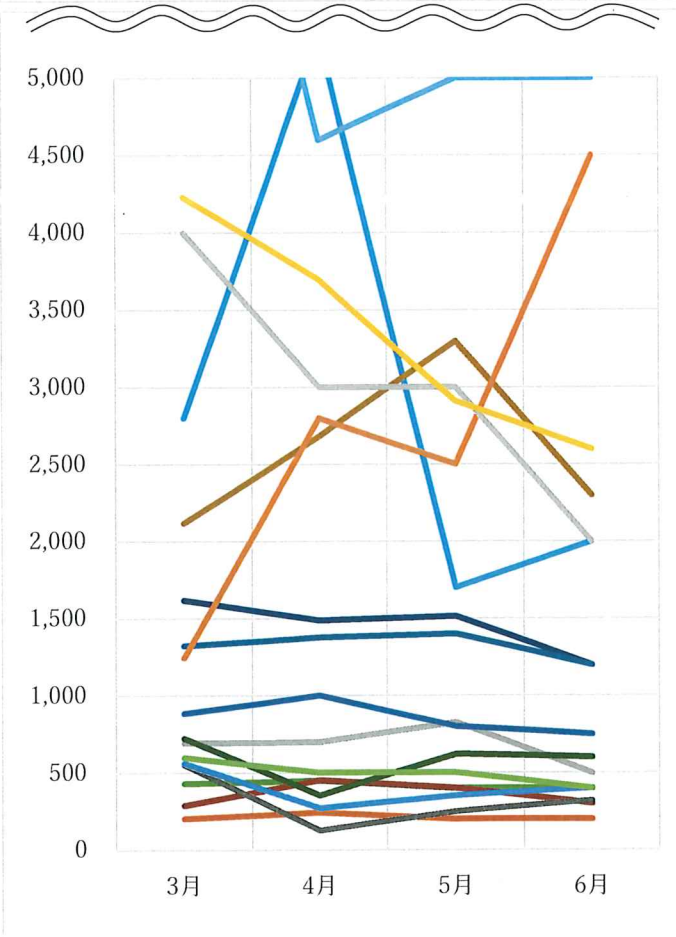
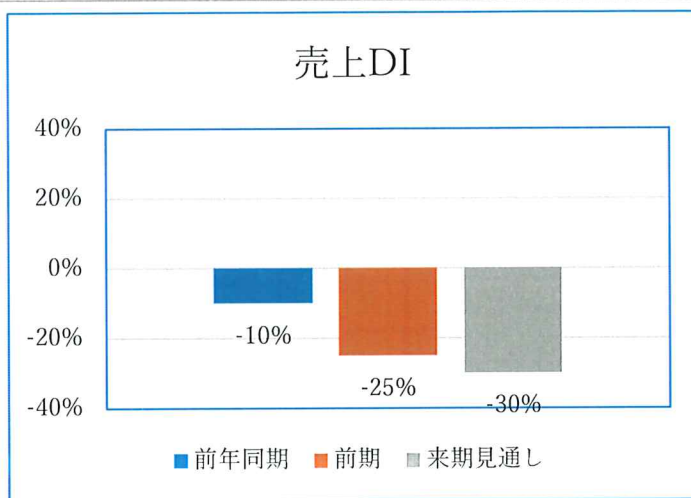
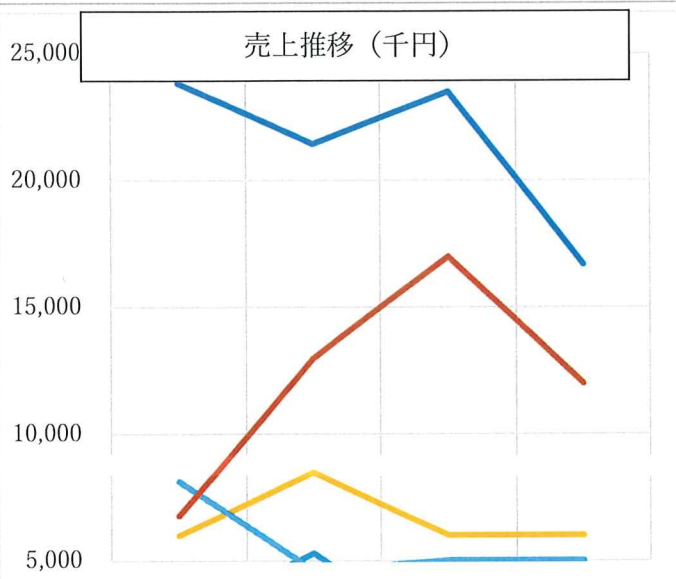


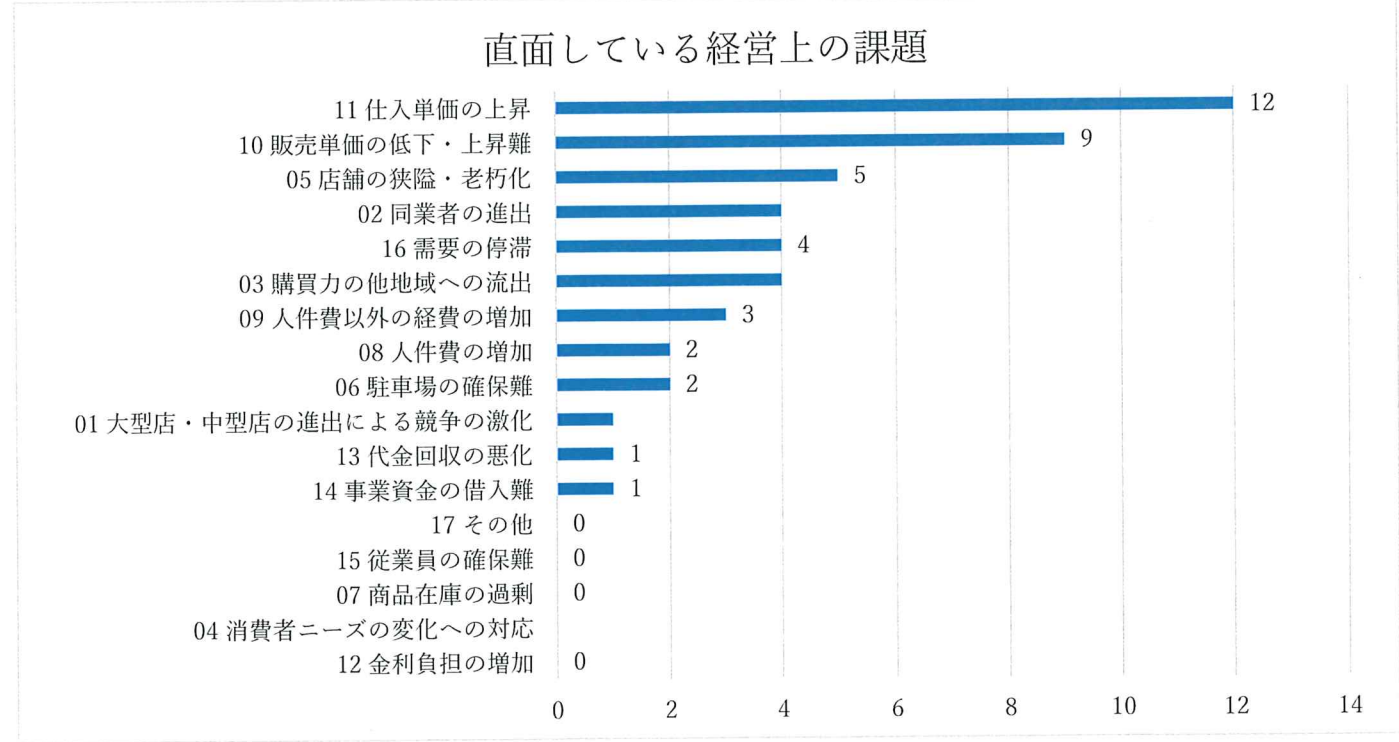
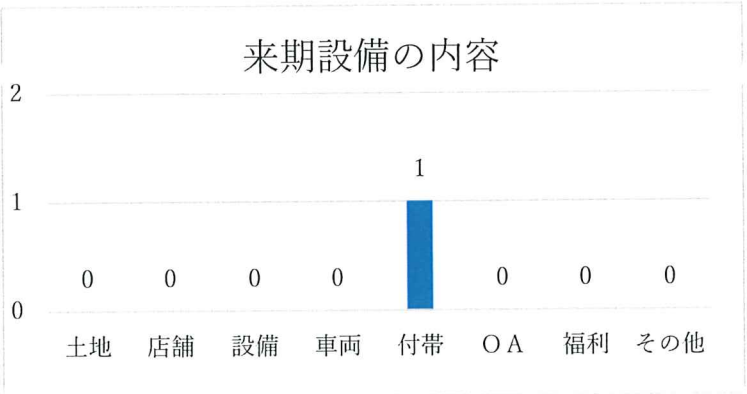
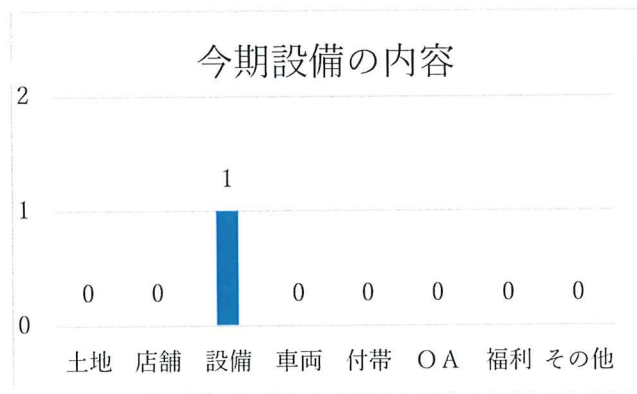
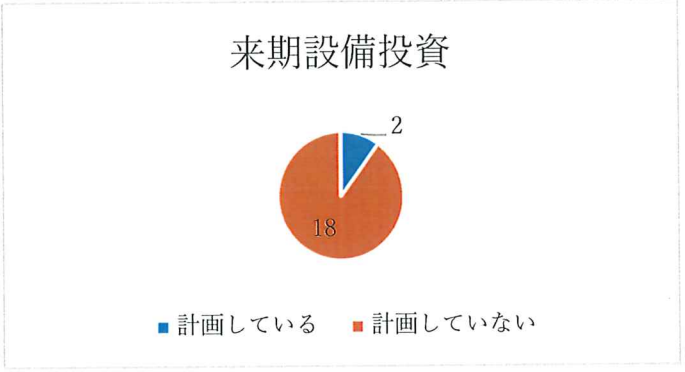
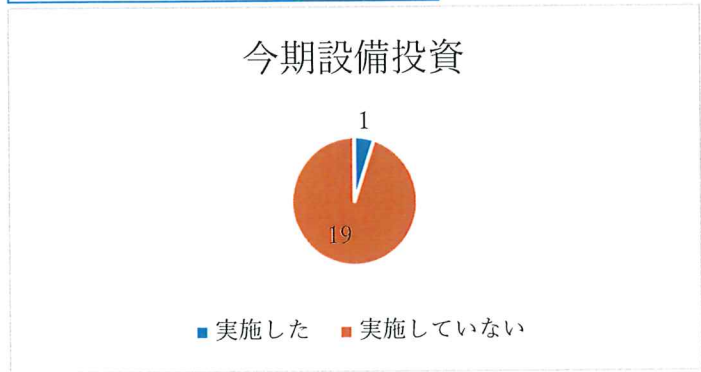
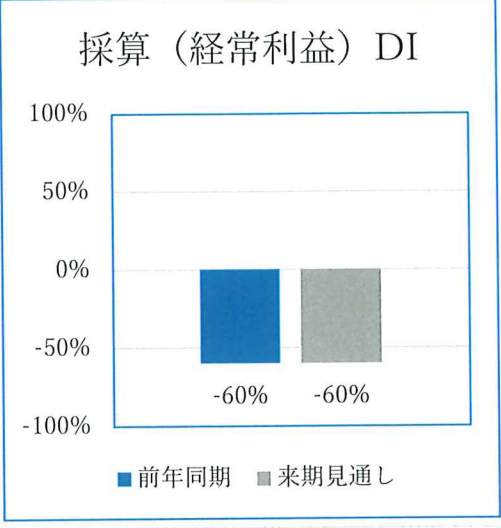
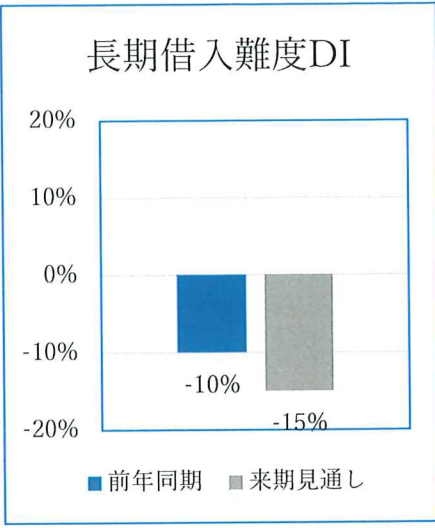
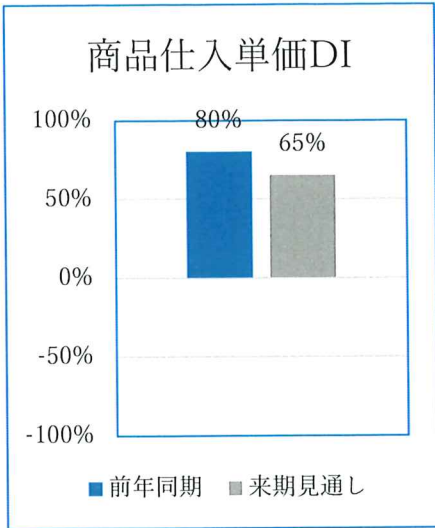


コメント

卸小売業の業況に関するDIは、足元も厳しい状況で先行きの見通しも低下が顕著である。仕入原価上昇で採算面悪化が顕著である。売上DIは前年同期▲10、前期からは▲25と厳しい状況であり。来期の見通しも▲30と先行の見通しが厳しい。資金繰りDIについては前年同期▲20、前期▲20、来期も▲30で依然として厳しい状況である。客単価の減少傾向も前年同期▲5、前期▲15、来期見通しも▲15と厳しい状況が続く。仕入単価上昇を上げる声が引き続き顕著で前年同期+80、来期見通しも+65と原価上昇が収益を圧迫してしている。借入難度の前年同期▲10、来期見通しは▲15と不安の声が増加している。直面している経営課題として、仕入れ価格上昇、販売単価低下と収益低下に関する課題を上げる声が多い。

個別の声として、円安による仕入れ単価上昇及びそれを上乗せしきれていないジレンマ。顧客の節約志向による需要減退。代金回収難もある。人件費や水道光熱費など、必要経費の高騰が大きく経営を圧迫している。従業員の確保が難しくなっている。など厳しい状況を訴える声が多いなか、コロナ禍も、落ちつき徐々に元の生活に戻りつつあります。その中でお客様も普通に来て下さり、いつも通りの売上があり、これからは新しい商品を開発していかなくてはと思っていますといった前向きな声もある。

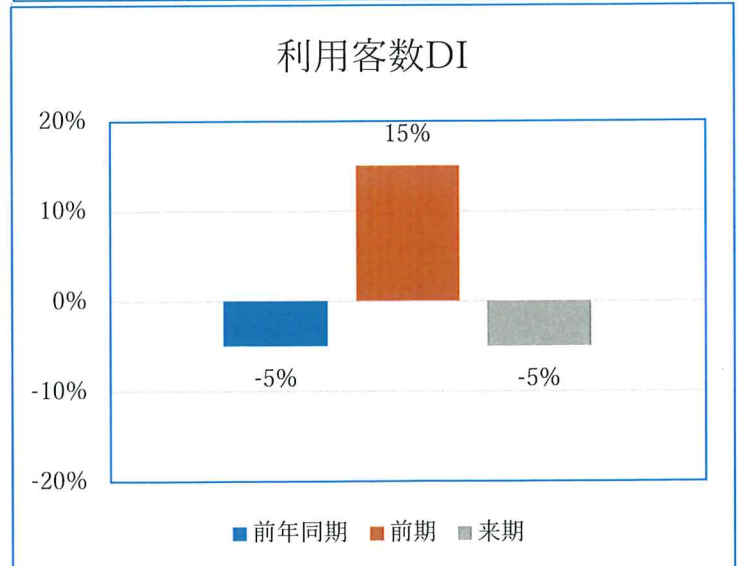
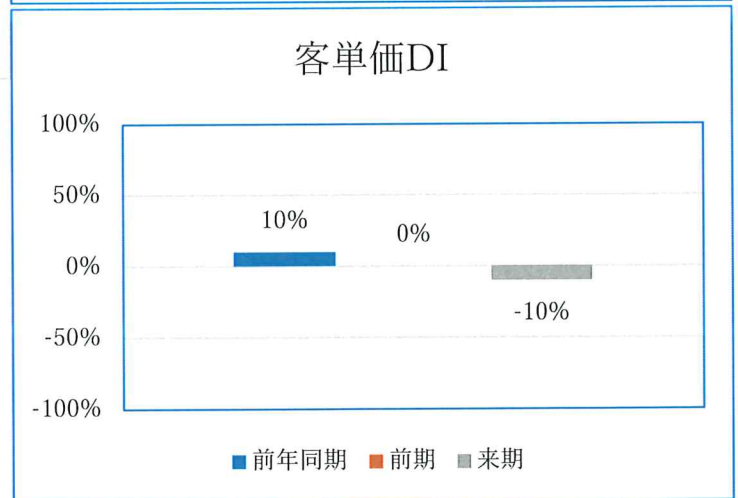
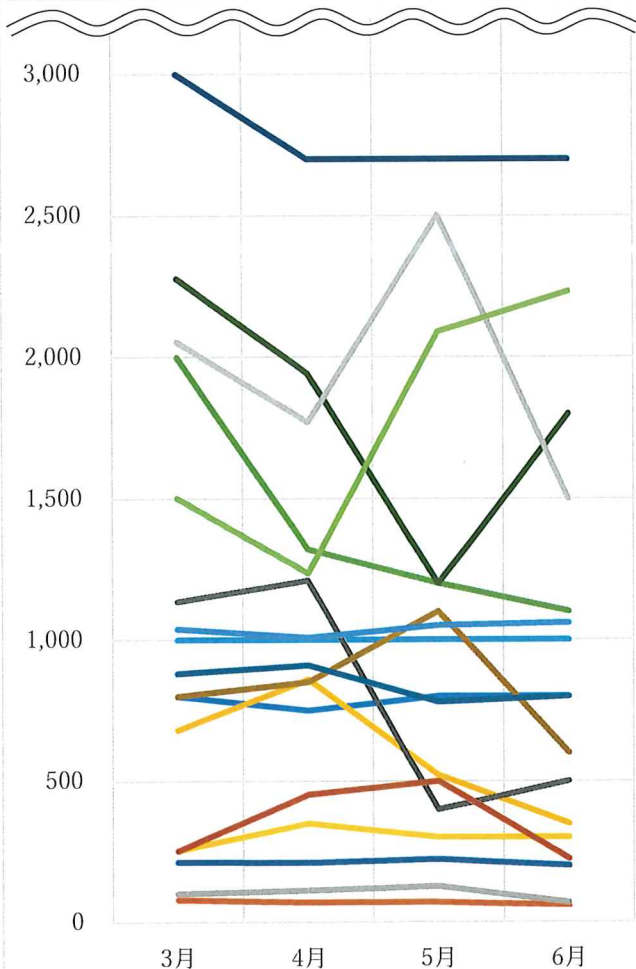
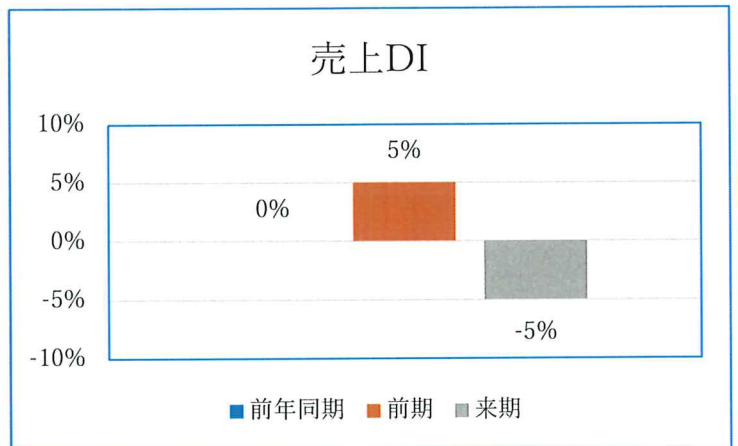
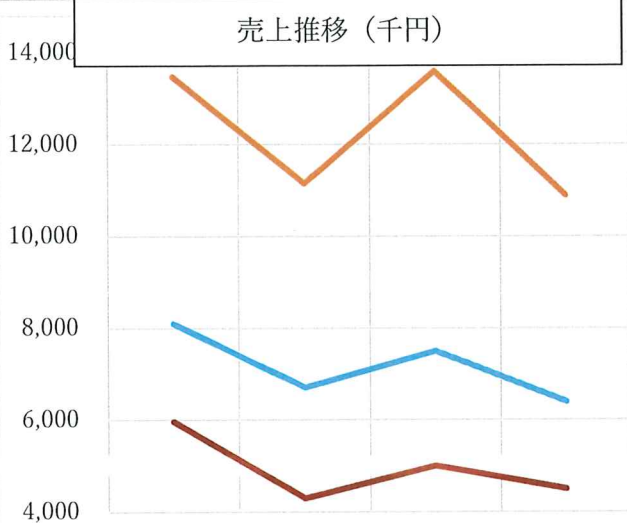


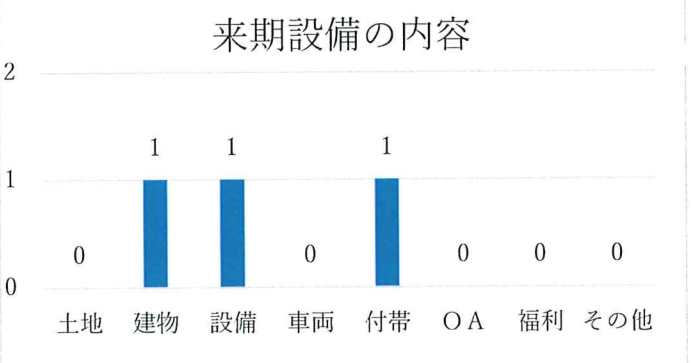
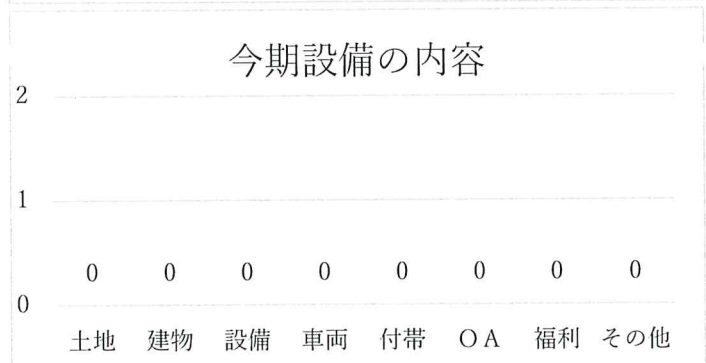
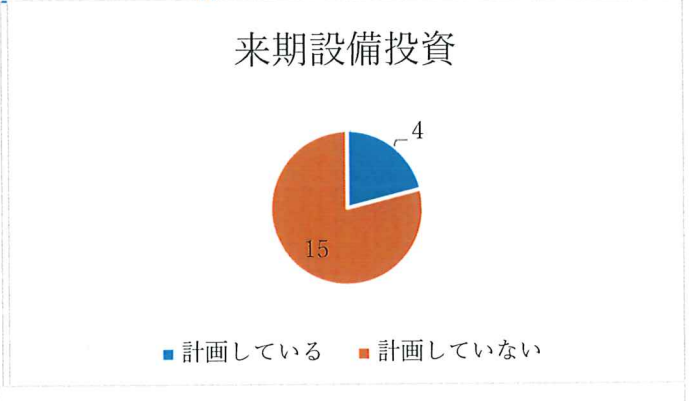
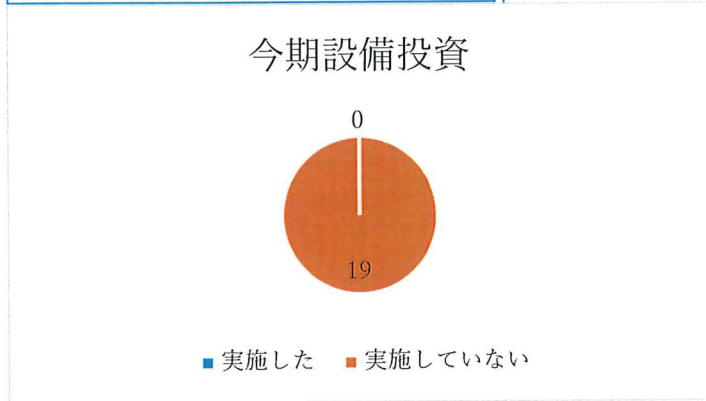
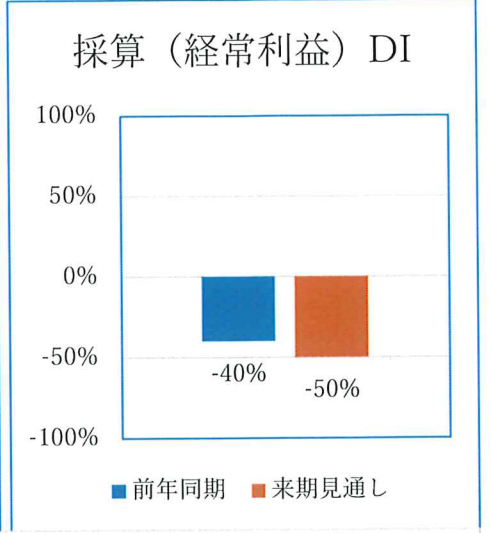
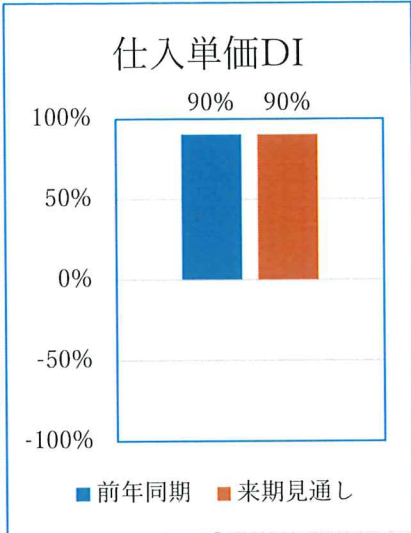
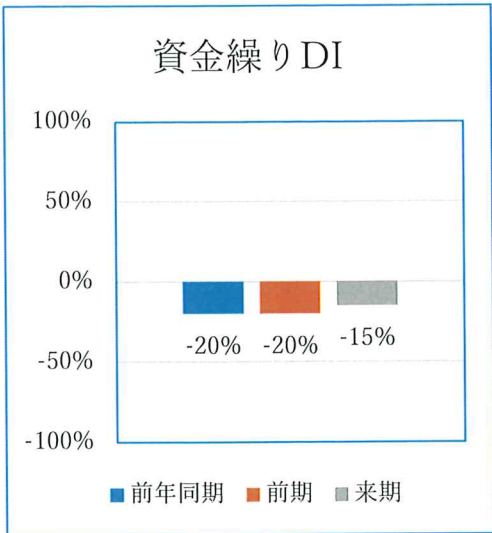


飲食宿泊業（2024年4月～6月）DI 値抜粋

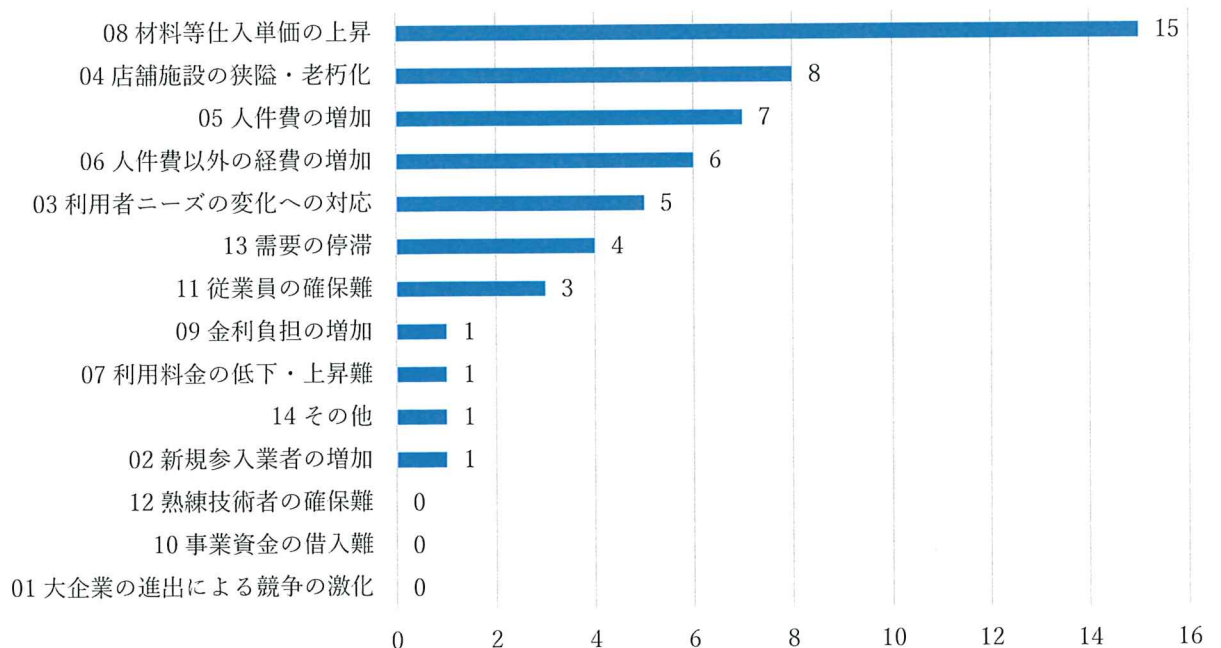
コメント

飲食宿泊業の業況に関するDIは、他業種より良化の傾向は見受けるが、コスト上昇により採算面は依然として厳しい状況である。売上DIは前年同期±0、前期+5、来期は▲5と他業種と比較して回復傾向にある。客単価DIは前年同期+10、前期±0、来期は▲10と低調な状況が続く。利用客数DI前年同期▲5、前期+15、今後の見通しは▲5と一進一退の状況が続く。資金繰りDIは前年同期▲20 前期▲20 来期▲15と資金繰り悪化の状況である。仕入単価の上昇は前年同期+90 来期見通しとも+90と原価上昇の状況が顕著で、採算は前年同期▲40 来期見通し▲50と厳しい見通しである。設備投資はきわめて低調である。経営課題には仕入単価の増加のほか、コロナ禍で着手できなかった店舗設備の老朽化を挙げる事業者が多い。個別の声として、仕入単価の高騰で利益が出ない。料理屋は世間の行事に左右されるので売上は安定しない。物価の上昇等の影響が大きく、店舗の老朽化が進み修繕費用がかさむ。回復してきているものの、食材を筆頭に原材料費や消耗品の価格が上昇し、景気の回復感が感じられない。人件費の上昇が今後、ボディブローになって影響しそうである。世の中のコロナに対する向き合い方が決まってきたと思う。特徴的な声として、コロナ禍での様式が定着したように思う。新しく世の中の状況を見極めて対応しなければ以前の常識は通用しない。といった重い声があった。





直面している経営上の課題

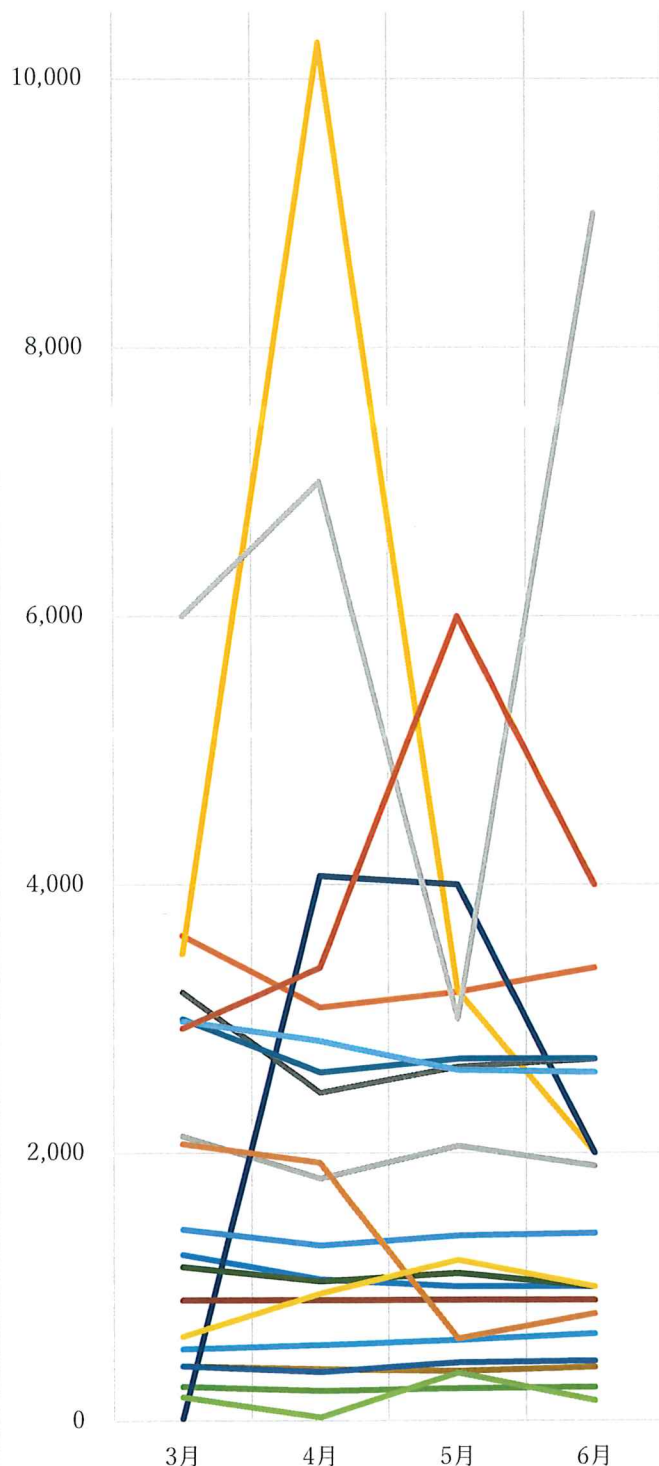


サービス業（2024年4月～6月）DI 値抜粋

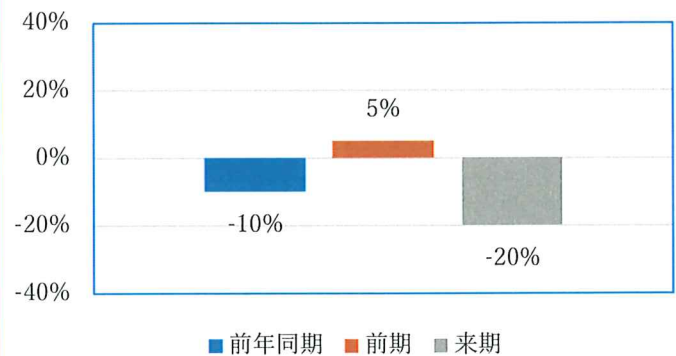
コメント

サービス業の業況は他業種同様に原価上昇の影響はあるが、下げ止まりの傾向が見受けられる。売上DIは前年同期▲10、前期+5、来期見通し▲20と一進一退の状況である。客単価DIは前年同期+20、前期±0、今後の見通しは±0と拮抗の状況である。客数DIは前年同期▲15前期▲20、今後の見通しは▲20と低調な状況である。資金繰りについて前年同期▲20、前期▲25来期も▲10と低調である。仕入単価DI前年同期+55来期見通し+45と原価上昇の声が多い。採算DIの前年同期▲10、来期見通し▲15となりコスト高による採算悪化が続く。設備投資も低調である。個別の声としては、新規のお客様を増やすことが難しい、デジタル化についていけない。仕入価格高騰が相次ぎ、卸価格改定や業務変更に手間がかかる。今後電力費を含めた値上げの影響が懸念される。材料費・光熱費の増加が大変です。物価上昇のしわ寄せが来ている感じが止まらない。消費者が消費行動をする政策が必要と思う。再度、ペイペイ等の企画をするのが良いかと思う。など、厳しい現状を訴える声が多数聞かれる。

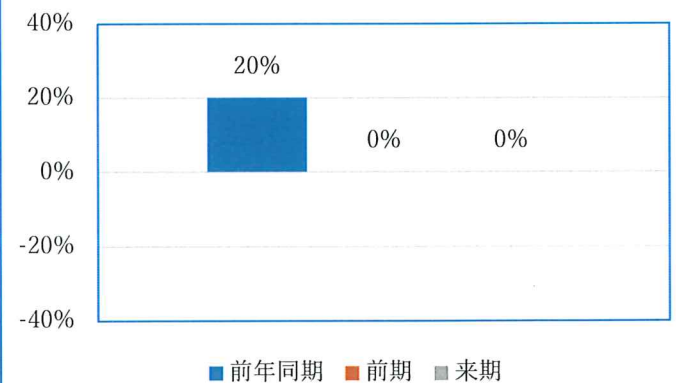
売上推移（千円）



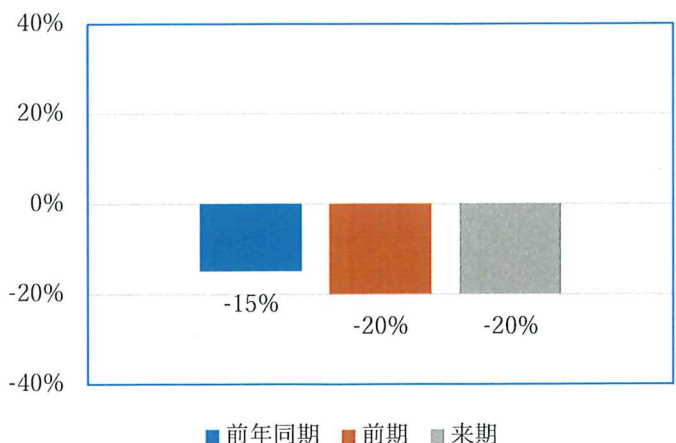
売上DI

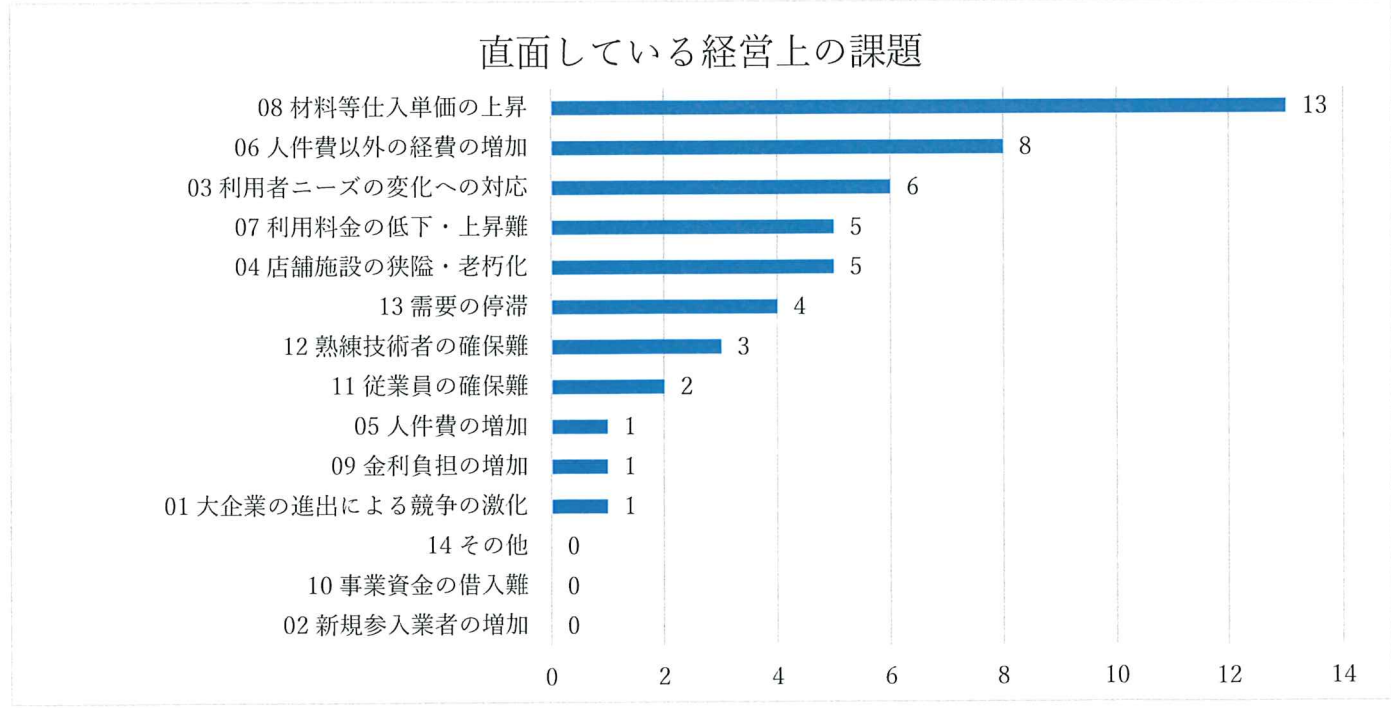
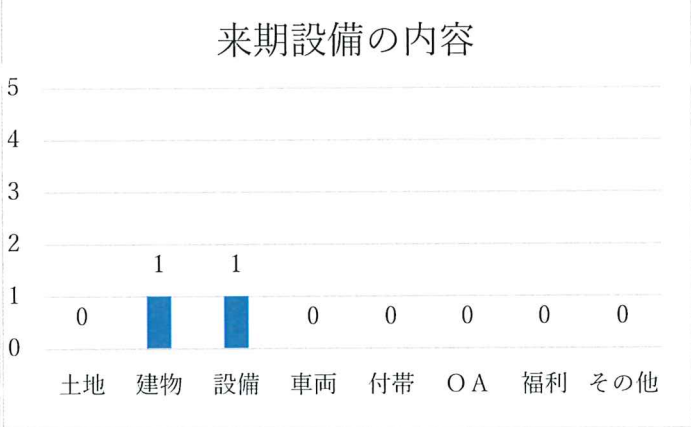
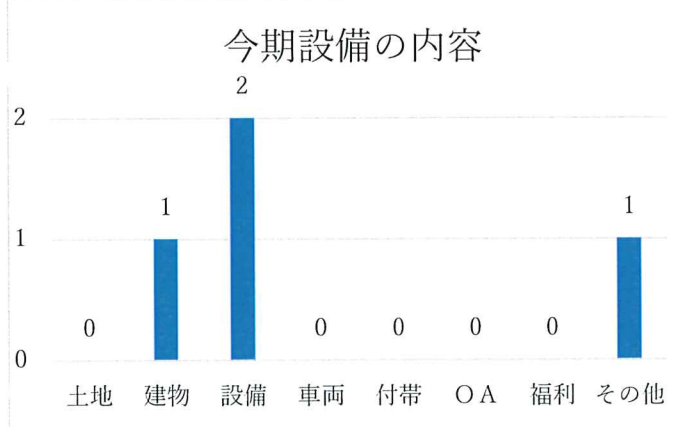
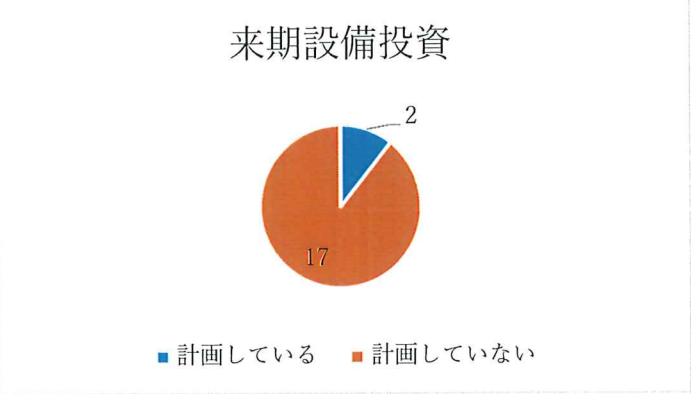
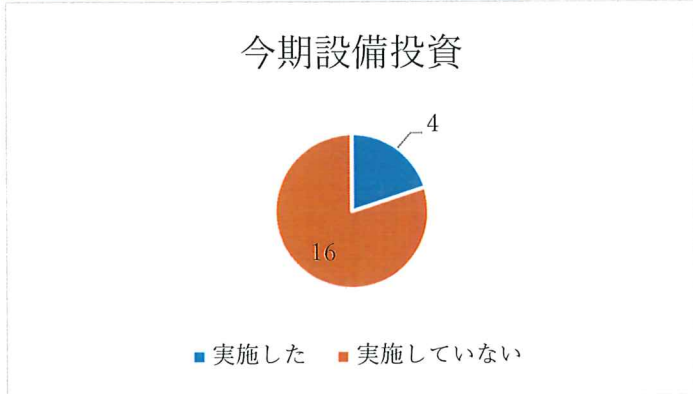
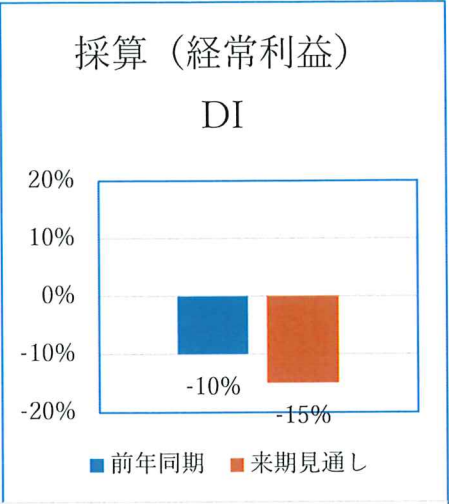
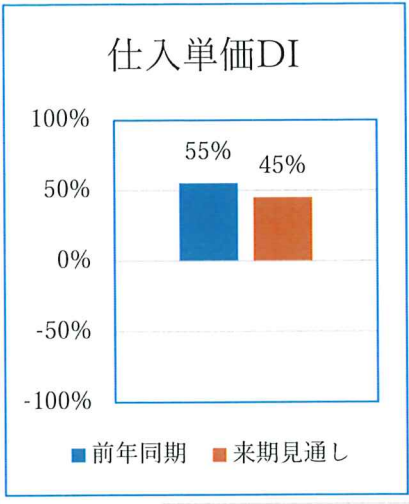
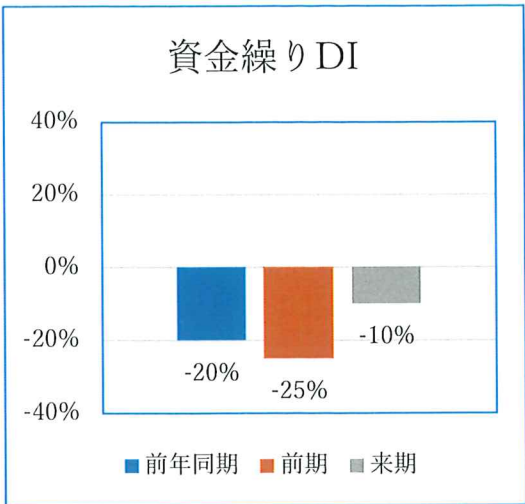


客単価DI



利用客数DI





小規模企業景気動向調査 [2024年4月期調査]

～コロナ禍を脱した経済の中で、業種により明暗の分かれる小規模企業景況～

<産業全体>

4月期の産業全体の景況は、全 DI が小幅に低下し、サービス業を除いた全業種で全 DI が低下した。サービス業を中心としたインバウンド需要を取り込みできる業種では活況が続いているが、その他の業種では前年同月比で売上額 DI が低下している。要因として、コロナ禍を脱した経済活動の中、コロナ融資の返済に加え、物価高でのコスト高騰や消費抑制、円安や賃上げ等が事業者に影響を及ぼしている。

DI	3月	4月	前月比
売上額	11.8	9.0	▲ 28
採算	▲ 11.8	▲ 15.3	▲ 35
資金繰り	▲ 9.9	▲ 12.4	▲ 25
業況	▲ 5.7	▲ 8.7	▲ 30

<製造業(食料品、繊維、機械・金属)>嗜好品等の売上額が伸び悩み、業種で景況感に偏りがある製造業

製造業は、売上額・採算・資金繰り・業況 DI の全 DI が小幅に低下した。

全業種にて前年同月比で売上額 DI が低下し、資材高騰が採算を圧迫している。食料品関連は、菓子等嗜好品の受注が伸び悩んでいる。機械・金属関連は、価格交渉が進むも、加工賃について難航するケースが多い。また、車両生産数が低調なことから、過去最大に売上が減少している、とのコメントがある。その一方、設備投資の機運が高まっており受注が増加している、とのコメントもあり、業界により景況感が二極化している。

DI	3月	4月	前月比
売上額	9.8	7.1	▲ 27
採算	▲ 13.7	▲ 17.4	▲ 37
資金繰り	▲ 10.3	▲ 13.9	▲ 36
業況	▲ 7.9	▲ 10.5	▲ 26

<建設業>大口工事の減少や、災害復旧工事等の局地的な発注が多く、先行き不透明な建設業

建設業は、売上額・採算・業況 DI は大幅に低下、資金繰り DI はわずかに低下した。

公共事業を主に請け負う事業者では、年度初めにより受注は少ないが、今後の受注増加に期待が高まっている。しかし、能登地震等の災害復旧工事が多く、その他地域の公共工事が減少している、とのコメントがあった。また、民間工事関連では、リフォーム工事需要は安定しているが、新築工事と比較すると単価が低く、新規顧客の獲得が困難で安定的な収益が見込めないことから、先行きを不安に感じる事業者が多い。

DI	3月	4月	前月比
売上額	17.5	10.6	▲ 69
採算	▲ 12.4	▲ 17.9	▲ 55
資金繰り	▲ 12.0	▲ 13.4	▲ 14
業況	▲ 4.3	▲ 11.0	▲ 67

<小売業(衣料品、食料品、耐久消費財)>消費マインドが生活必需品に集中する小売業

小売業は、全 DI が低下。特に売上額 DI は大幅に低下、採算 DI は小幅に低下した。

入学シーズンや新生活シーズンの季節的需要により、月前半をメインとして消費に動きがみられたことで売上額 DI はプラスでとどまったが、必要最低限のもののみを購入する消費マインドが見られる、とのコメントが目立つ。衣料品関連は、コロナ禍を経て買い物習慣に変化が起き、EC市場が中心となり始めている、とのコメントがあった。耐久消費財関連では、省エネや猛暑への備えとして、エアコンの売上が伸びている。

DI	3月	4月	前月比
売上額	7.3	2.0	▲ 53
採算	▲ 16.8	▲ 19.9	▲ 3.1
資金繰り	▲ 13.9	▲ 15.5	▲ 1.6
業況	▲ 12.5	▲ 14.3	▲ 1.8

<サービス業(旅館、クリーニング、理・美容)>全業種で唯一業況がプラス値で推移し、活況の続くサービス業

サービス業は、売上額 DI は小幅に上昇したが、資金繰り DI は小幅に低下した。

旅館関連では、インバウンド需要はアジア圏が中心だが、ヨーロッパ圏の客数も増加傾向。コスト高から客室価格を見直す事業者は多く、売上額は増加する一方、顧客のキャッシュレス化が進むことで資金繰りに影響がでている事業者もある。クリーニング関連は、入学式等の行事や、衣替えの影響から一年の中でも売上が伸びる時期だが、価格転嫁が進まずコスト増加しており、採算および資金繰りが厳しい状況である。

DI	3月	4月	前月比
売上額	12.8	16.3	3.5
採算	▲ 4.4	▲ 5.9	▲ 1.5
資金繰り	▲ 3.3	▲ 6.8	▲ 3.5
業況	2.1	0.9	▲ 1.2

調査概要

- ・調査対象: 全国 303 商工会の経営指導員 (有効回答数: 250/回答率 82.5%)
- ・調査時点: 2024 年 4 月末
- ・調査方法: 対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式
- ※ DI (景気動向指数) は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。